

# 30P1-am005

城西国際大学における薬学部2年生を対象としたゼミ活動の一例

－薬局における患者アンケート調査実施後の学生への意識調査－

○高松 昭司<sup>1</sup>, 富澤 崇<sup>1</sup>, 岸本 雅邦<sup>2</sup>, 中島 新一郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>城西国際大薬, <sup>2</sup>東口岸本薬局)

**【目的】**城西国際大学（JIU）のJIU学会では、学生の自主的研究活動を推進するため、選考されたゼミ活動に対して研究費を助成している。本年度薬学部では、4つのゼミ活動が選考され、計35名の2年生がゼミ活動を行った。今回我々は5名の薬学生とともに医薬品情報に関するゼミ活動を行い、その後、本ゼミ活動に参加した学生を対象に、ゼミ活動に関する意見・感想等についての意識調査を実施したのでその結果について報告する。

**【方法】**学生は、患者が求めている医薬品情報についてのアンケート用紙を作成し、保険薬局の協力のもとで患者アンケート調査を実施した後、得られたデータを集計・解析してその結果についてJIU学会で発表した。一連のゼミ活動終了後に、本ゼミ参加学生を対象に、ゼミに参加した目的やその目的は達成されたか等、本ゼミ活動に関する意識調査を実施した。なお、患者アンケート調査は、JIU倫理委員会の承認を得て実施している。

**【結果及び考察】**本ゼミ活動に参加した動機及び目的について、全員が「医薬品情報に興味があったから」及び「患者様と接してみたかったから」、「自身のスキルアップになると思ったから」と答え、参加した目的の達成度については、全員が「達成された」と解答した。また、「実際に薬局に立ち、患者様と接することができたことは大変貴重な体験となり、これからの課題も見つかり、将来に向けて頑張ろうという気持ちになった」との意見もあった。今回の学生への意識調査の結果、2年生という比較的早い時期で実際に患者と接するという体験は、早期体験学習になることは勿論、その後の学生の学習に対するモチベーションアップになるとともに、成績向上にもつながることが期待できると考えられた。